

猪口大臣

ナースの仕事、生活、育児の未来について
お話を伺わせてください



TALK on
Nursing

編集長対談

2



少子化担当を南野前大臣から継承された猪口大臣には、何となく親しさを覚えます。兼任されている男女共同参画も看護職と密接に関わる刮目(カツモク)すべき問題。看護職として、女性として、今後ともそのご活躍は見逃せないのはもちろん、大いに期待する猪口大臣にお話を伺いました。

猪口邦子

内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画担当)・
衆議院議員

仕事を離れ家庭に入った女性は、 貴重な経験を積んだ個性であり能力である

永池 日ごろから、看護連盟の活動を応援していただき、ありがとうございます。また、大臣が取り組まれている男女共同参画の問題ですが、看護師は

女性の比率が圧倒的に高く、仕事と家庭・育児の問題などで悩んでいる人がまだまだ少なくない、ということはどうしても連想するのですが…。

編集長

永池京子



猪口大臣 男女共同参画社会の形成は、民主主義の本質にかかわる国の重要な課題と認識しており、全力で取り組まなければならないと考えております。
*1

仕事と家庭の両立支援、仕事と生活の調和が男女共同参画社会の重要な柱です。しかし、日本では、仕事と家庭との両立がなかなか難しいのです。仕事と家庭の両立が可能な、そして家庭の事情が一段落した女性が仕事に復帰できる、その女性を貴重な経験を積んだ個性と能力であると積極的に受け入れる社会づくりが必要です。必要な支援や学習の機会を設けて、有為な人材として女性に戻ってきてもらう

「女性の再チャレンジ支援」を平成18年度から全面展開します。

看護の場合は、看護師の職場における能力の重要性を高く評価し、仕事を継続できる環境を作り上げることが、やはり重要でしょうね。

永池 47都道府県にナースセンターがあり、一度退職された方に職場に復帰してもらおう、という取り組みを行っております。復帰する方が増えれば、看護師不足も解消できるかもしれないと…。

猪口大臣 これからは、育児休業の代用の職員をきちんと職場に組み込むといったシステムも必要でしょうね。そういった人材のプールも必要です。

永池 配置基準との関係から難しい面もありますが、私たち看護師も頑張っ取り組んでいきます。何卒ご支援をよろしくお願いいたします。

猪口大臣 どのような支援が必要なのか、教えていただきたいと思っております。

(注) *1

男女共同参画の理念を巡って、誤解に基づく様々な指摘があった。このため、政府は、昨年12月に閣議決定した「第2次男女共同参画基本計画」の検討段階において、地方公聴会の開催や意見募集の実施などを通じて、広く各界各層の国民から意見を聞いたほか、与党との間でも十分な調整を行った。

同基本計画においては、「社会的性別」(ジェンダー)の視点について、明確な定義を置いた上で使用するとともに、不適切な事例を示すことなどを通じ、男女共同参画について正しい理解を促進することとした。現在、男女共同参画の理念や「社会的性別」(ジェンダー)の視点の定義に関する正確な理解を深めるため、猪口大臣自ら全国各地を往訪し、「大臣による男女共同参画研修会」を開催するなどの取組を行っている。



猪口邦子(いのぐちくにこ)

内閣府特命担当大臣(少子化・男女共同参画担当)・衆議院議員

1952年生まれ、千葉県出身。

1975年上智大学外国語学部卒業。1981年上智大学法学部助教授。1982年エール大学政治学博士号(Ph.D.)取得。ハーバード大学国際問題研究所客員研究員、オーストラリア国立大学政治学部客員研究員、上智大学法学部教授、草創会議日本政府代表団特命全權大使などを歴任し、2005年衆議院議員に初当選、初任閣内。現在に至る。また、国連軍縮委員会(ニューヨーク国連本部)委員、国際民主化・選挙支援研究所(ストックホルム)理事、日本国際政治学会理事・評議委員などを務める。

(注) *2

少子化の原因として、未婚化の進行、晩婚化の進行、あるいは夫婦の子ども数の減少傾向などがあげられる。その背景には、①働き方の見直しに関する取組が進んでいない(子育て期にある30歳代男性の長時間労働、育児休業取得も進んでいない)、②子育て支援サービスが十分に行きわたっていない(待機児童の存在、地域における支援サービスが不十分)、③若者の自立が難しい社会経済状況(フリーターやニートの増大、非正規雇用の増大)などがあり、子どもを産み育てやすい環境整備が整っていないものと考えられる。

一方、昨年12月の人口動態統計(厚生労働省)や、国勢調査(総務省)の速報値によると、昨年の日本の総人口は、戦後初めて減少に転じた見込みである。少子化の急速な進行は、国の基本にかかわる重要な問題である。他方、第2次ベビーブーム世代が30代であるのも今後5年程度の期間であり、今や、少子化対策は「時間との闘い」の局面に入り、国の喫緊の最重要課題と認識している。政府では、子どもを安心して産み育て、子どもが健全に育っていくことのできる社会の実現のため、現在「子ども・子育て応援プラン」に基づき、仕事と家庭の両立支援と働き方の見直し、子育てを地域をはじめ社会全体が支える施策の推進、若者の経済的な自立支援などの幅広い施策を総合的に推進している。

看護師と教師は、日本の中で、古くから職業婦人としての道がひらかれてきた、規模の大きな職業集団ですね。その先行モデルとして、今なお抱えてい

る問題を解決するために、看護師の皆さまには、自負と責任感と前向きな姿勢をもって、頑張っていたいただきたいと思っています。

仕事と家庭を両立できる、子育てにやさしい企業、病院、職場が、これからのメインストリームになる

永池 看護職の場合「両立支援」がネックとなっていると思います。看護の24時間体制のなかで、勤務スケジュールは前の月には決まっています。そこで、たとえば「子供の具合が悪い」と言って抜けると、他の誰かが代行しなければなりません。結果、迷惑をかけることになる。このように、十分なスキルをもっていながら、職場の責任を果たせないために、パートタイムのよ

うな仕事についているケースも少なくありません。
猪口大臣 やはり、誰かが何らかの事情で仕事を抜ける事態があるということを想定した、勤務システムをつくる必要があるでしょうね。
永池 そのとおりだと思います。しかし、今回の診療報酬で看護師の配置基準が引き上げられましたが、それでも現状の仕事をごなすのにギリギリでし

て、経営的な観点からは、大臣のおっしゃるシステムを作る余裕がないというのが現実です。

猪口大臣 子育てに優しい企業、病院、職場が、時代の先進的な取り組みを行っている場所だ、という流れをつくっていくことが重要です。そのような職場がメインストリームとなり、そうでない企業は、長期的にみて競争力を失っていくだろうと思います。*2

また、小泉総理の進める構造改革は何のための構造改革か、ということですが。構造改革は国だけのものではなく、すべての組織に関係のあることです。構造改革によって効率的な経営を行い、生み出された余力を環境や子育て支援に振り向けるとは、いかかと思えます。

永池 病院長は医師と定められていますが、病院長で経営を学んでいる人は少ないんです。看護職が病院長として、経営に参画している所も出てきました

が、まだ多くありません。患者に近い目標をもち経営を学んだ看護職が病院経営に参画するようになれば、仕事の環境も変わってくると思うのですが……。

猪口大臣 その点に関しましては、今年度改訂する男女共同参画のなかで202030(ニーマルニーマルサンジユウ)という目標を掲げています。これは、2020年までに、組織のなかで指導的地位にある女性の割合が、30%を超えることを目標としています。

この計画には当然、病院組織も含まれます。2020年とはずいぶん先のように思われるでしょうが、環境の整備、人材の育成には、時間がかかります。ですから、計画を立てて、たとえば2010年までには何%達成という目標をつくることも考えています。

永池 わかりました。私たちも202030を今から意識して、仕事に取り組みたいと思います。本日は、貴重な

お時間を、ありがとうございました。猪口大臣のお話を伺いまして、力が湧いてきた気がします。最後に、全国の看護師へのエールをお願いします。

猪口大臣 私のころは就職難だったんですが、今は、継続難なのだと思います。継続できない職場には、優秀な人材を起用していくのは、これから難しくなると思います。そういう意味で、これまで仕事を継続してこられた看護師の皆さまは、これからも後進から評

価を得られるように頑張ってもらいたいと思います。

また、これから色々な機会が女性にひらかれてくると思いますが、その時にひるまないで、頑張ってくださいと思います。そして周りの人たちは、ひがまないで欲しいし、まして足を引っ張らないで欲しいと思います。これを、3つの「ひ」と呼んでいるんですけどね(笑)。お互い支え合いながら、それぞれの道を進んで欲しいですね。

看護師は、21世紀の社会において、重要な役割を担い、新しい社会の考え方を示す前線に立っていると思います。というのは「みんなが含まれる社会(Inclusion)」という考え方が、これからは重要だと考えるからです。つまり、社会のなかで一人ひとりが大事なのだ。人生のなかで困った時、辛い時に、分け隔てなく接してくれるのは、看護師ですよね。ですから、看護師のみなさんには多くを期待しています。



永池京子(ながいけきょうこ)
日本看護連盟常任幹事
1956年生まれ、長野県出身。ハワイ大学大学院修了
1980年看護師免許取得、聖路加国際病院勤務(病棟主任)。1989年渡米。1992年看護師免許取得(ハワイ州米国)、1994年クアキニ・メディカルセンター勤務(マネージャー)。1998年帰国、ヘルスケア・システムズ勤務(品質管理部長)。2000年特定医療法人仁愛会済生会病院勤務(副院長兼看護部長)。2005年から現職。



photo: 紀 善久



TALK on Nursing

編集長対談